

## お礼のことば

第 49 回東海地区公立小中学校事務研究大会

鈴鹿大会実行委員長 谷口 正彦

平成 30 年 2 月 9 日（金）、第 49 回東海地区公立小中学校事務研究大会鈴鹿大会を鈴鹿市民会館において盛会に開催することができました。天候にも恵まれ、三重・愛知・岐阜・静岡の東海 4 県はもとより、全国各地から 820 名という多くの皆様に参加いただきましたこと、お礼申し上げます。

開会式では、三重県教育委員会教育長 廣田恵子様、鈴鹿市副市長 亀井秀樹様をはじめ、多くのご来賓の皆様にご公務多忙のなか、ご臨席を賜り、諸課題解決に向けて必要とされる学校事務職員の役割や期待のお言葉をいただきました。

全体会では、東海事務研に研究プロジェクトを立ち上げて、『「チーム学校」の実現に向けた「協働」の創生～「チーム東海」、想いをひとつに！次代につなぐ組織的な学校事務の展開に向けて～』のテーマでシンポジウムを企画していただきました。その中で、「チーム学校」の答申による学校経営面への役割、「地域創生」の答申については、地域連携におけるマネジメント力の中心的役割等、これからの学校づくりに学校事務職員として果たすべき役割について目的と目標を示していただきました。平成 29 年 4 月 1 日から学校教育法等の改正をうけ、「より主体的・積極的に公務運営に参画することを目指す」ことを期待されていることを考えると、私たち学校事務職員にとって指針となるような企画であったと思います。

講演会では、AGF 鈴鹿株式会社代表取締役社長 塚本祐司様から、目標に向かって社員のチーム力を結集することの重要性や地域貢献について興味あるお話をしていただきました。

大会テーマは鈴鹿大会から「学校・家庭・地域、次代へつなぐ学校事務の創生」と新しく設定されました。キーワード「つながり」は継続して使用されます。全体会のみ 1 日大会でしたが、念願であった事務職員の職務の根幹に関わる学校教育法等が改正された年に鈴鹿市で研究大会を開催できましたこと、名誉なことと思っています。学校を取り巻く諸課題に対応するため、学校で協働し、鈴鹿大会のサブテーマである「子どもたちの夢と希望の実現」のために期待される事務職員の役割を果たすための起点となる大会であったことを願っています。

平成 30 年度は、第 50 回の記念大会が稲沢市で開催されます。私たち事務職員は時代の変化に対応し、同じ思いを「つながり」で次代につないでいきます。11 月に元気に稲沢でお会いしましょう。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、ご後援とご支援をいただきました文部科学省、三重県教育委員会、鈴鹿市、鈴鹿市教育委員会をはじめ多くの教育関係団体、関係者の皆様にあらためて感謝申し上げます。お礼のことばといたします。